



## 過去から未来へのつなぎ役として安心社会実現に向け運動を力強く進めていく！ —「第28回定期大会」でさらなる結集を求め、新年度スタート！—



会長あいさつ  
写真上/本川会長



議長団

【来賓のみなさん】

左から 石田連合副事務局長  
石田鳥取労働局長  
小林鳥取県統括監  
湯原推薦予定候補者



議事を挙手で承認する代議員のみなさん

11月10日(火)、連合鳥取は、ハワイアロハホール・大ホールに総勢145人(代議員109人(うち女性32人・参画率29.4%)・特別代議員3人・執行部30人・傍聴3人)が集い「第28回定期大会」を開催し、2020年度の活動の総括を行うとともに、2021年度の運動方針・予算と「第3次男女平等参画推進計画(プラスワン)」を満場一致で決定しました。今大会は「コロナ禍での開催であり、感染予防対策を徹底し、短時間開催とするため来賓は4人にご臨席いただき、例年ご案内するみなさんからは多くの祝電・メッセージを頂戴しました。

### 【開会】

澤田陽子副会長の開会あいさつその後、村尾菜穂子代議員(JR連合)と太田裕美代議員(自治労)を議長に選出し、早速、議事に入りました。

### 【会長あいさつ(抜粋)】

コロナ禍の今、これまでの価値観にとらわれることなく、暮らしの在り様を考えていく必要がある。労働組合があれば起きないトラブルが多い。一人でも加入できる「連合・とっとりユニオン」を足がかりに、組織拡大目標の3万5千人に向け取り組みを進めていきたい。

政治課題については、「幅広く野党共闘のネットワークの構築を図るべき」と考える。最重要なことは憲法や民主主義を守り、エネルギー政策や社会保障政策などについて常識や正義感を持つ人を選択することだと思ふ。「連合鳥取推薦議員団会議」で、「自分の仕事を守り、暮らしを良くするために選挙活動を命をかけてやらないとだめだ」という発言があった。その言葉が耳から離れない。ぜひ次期衆議院選挙に鳥取2区から立候補予定の湯原俊二連合鳥取推薦候補者の必勝に向けて最大限の結集をお願いしたい。

いつの時代も労働運動は平和や民主主義を守り、安心して暮らせる社会の実現に向けた原動力でなければならぬ。結成30年を迎えた今、過去から未来へのつなぎ役として安心社会の実現に向けた運動を力強く進めていく。

### 【来賓あいさつ】

ご多忙の中、ご臨席いただいた来賓を代

表して、連合副事務局長の石田昭浩さん、鳥取労働局長の石田聡さん、鳥取県統括監の小林綾子さんと第49回衆議院議員選挙の連合鳥取推薦予定候補者の湯原俊二さんから激励のあいさつをいただきました。

### 【活動報告&議案他】

「2020年度の活動報告、会計決算・監査報告と剰余金処分案」、ならびに「新年度の運動方針、予算、役員体制」を執行部より提案し満場一致で承認されました。

また、2013年の「第21回定期大会」で決定した2020年10月までを期限に進めてきた「第3次男女平等参画推進計画」について、「達成できていない目標を1年後の2021年までに達成できるよう取り組み」とした「第3次男女平等参画推進計画+1(プラスワン)」についても、2人の代議員から積極的な意見をいただき、満場一致で承認いただきました。

### 【新規加盟組合あいさつ】

連合・とっとりユニオンに加盟された「智頭町社会福祉協議会労働組合」の寺坂由美子執行委員長他2人の役員が登壇し、「職場改善に向け組合員みんなで力をあわせていく」とあいさつしました。

### 【大会宣言採択】

「新型コロナウイルス」に負けず、「誰もが安心して働ける職場環境に向けた運動に取り組もう」と訴える大会宣言を、女性執行委員の小西由起さんが提案し、盛大な拍手で承認されました。

### 【閉会・団結がんばろう！】

本川博孝会長の音頭で「団結がんばろう！」を三唱し閉会しました。

—「第28回定期大会」についてはフォトニュースもご参照ください—

鳥取県の最低賃金／産別最賃が変わります

鳥取県最低賃金

電子部品・デバイス・電子回路、  
電気機械器具、情報通信機械器具製造業

809円

(現在807円)

2020年12月30日発効予定

792円

# 政治特集

## より安心して生活できる社会をめざして ～地域協議会・退職者連合「政策・制度要求書」を手交～

### 東部地協 → 鳥取市

東部地域協議会は、11月18日(水)、鳥取市役所にて、「2021連合鳥取東部地協 政策・制度に関する要求」を村尾昌彦議長より鳥取市役所経済観光部の平井圭介部長に提出しました。

今後は、関連課との意見交換の場を経て政策実現に結びつけていきます。

#### ■村尾議長発言(要旨)■

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い「新しい生活様式」が提唱される中での私たち働く者、生活者の立場からの課題、すべての労働者の雇用・労働施策、住みやすいまちづくりや、教育、住民の安心・安全な生活確保、子ども・子育て対策の充実等働く者の立場からの提言として受け止めていただき、当面の経済・財政運営新年度予算に反映いただきたい。

#### ■鳥取市・平井経済観光部長より■

東部地域協議会の提言は市の政策と一致している部分が多々あり、今後の意見交換の場にて反映させたい。



〈左から〉鳥取市・平井部長  
村尾昌彦議長  
濱崎耕次事務局長  
常藤充博さん(日教組)

### 西部地協 → 米子市・境港市

西部地域協議会は、「2021年度政策・制度要求」を米子市(10月19日(月))、境港市(10月21日(水))に提出しました。

12月に意見交換を行い、すべての働く人の暮らしの向上、誰もが平等に安心して働ける職場環境、そして子ども達が貧困の連鎖によって、生活・教育に差別のない社会環境をつくるために議論を行います。

#### 一政策・制度要求の 主な内容一

1. 若者就労支援について
2. 子どもの貧困対策について
3. 教育政策について
4. 福祉政策について
5. 観光政策について
6. 政治参加の促進について

#### ※米子市



#### ※境港市



渡辺総務部次長に  
要請書を手交する遠藤史章副議長(右)

八幡政策部長に要請書を手交する  
佐貫警事務局長(左)

### 鳥取退職者連合 → 鳥取県

11月24日(火)、鳥取退職者連合は6人の役員が鳥取県庁へ出向き、山田敏明会長から野川聡副知事に「2021年度社会保障制度等に関する要請書」を手交しました。

今後、回答を受けた後、具体的内容について担当部局と意見交換を実施します。

#### 一要請の主な内容一

- I. 介護保険について
- II. 地域公共交通の充実について
- III. 災害対策について
- IV. 新型コロナ感染防止策について
- V. 低所得高齢者単身女性の課題解決に向けて
- VI. 社会的孤立や孤独死の防止対策をはかること
- VII. 高齢者の消費者被害防止をはかること

慣れ親しんだ地域で  
暮らし続けたい！



野川副知事に手交する山田会長(右)

## 中部地協「推薦県議会議員との意見交換会」を開催

中部地域協議会は、11月6日(金)に倉吉市「倉吉体育文化会館」で連合推薦県議会議員との意見交換会を開催しました。

伊藤保県議会議員(写真上右)、興治英夫県議会議員(写真上左)と、地協役員13人の参加により、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、行財政、雇用・労働政策、交通政策分野において、「すべての労働者・生活者にとって働きやすい環境」や「安心・安全で住みやすい環境づくり」について意見交換を行いました。

議員からは県政に限らず、国政から市町村行政にわたる幅広い対応についての提言・回答を得ることができ、引き続き情報を共有しながら連携していくことを確認しました。



興治県議(左)と伊藤県議(右)



真剣に話を聞く参加者

#### 参加者からの意見・要望(抜粋)

- コロナ対策
  - ・雇用維持対策(休業補償)の延長
  - ・中小企業の補助金申請利用率の状況
  - ・医療、介護、福祉労働者への補助
- 公共交通&交通対策
  - ・バス事業者等支援・助成制度の状況
  - ・スクールバス等のバス停利用
  - ・渋滞緩和と安全対策
- その他
  - ・マイナンバー交付方法 など

〈過去の答え〉  
正解は1・3 正解率は18.18%でした。  
労働協約は、書面で締結するものとされ(労組法14条)このような要式を備えない場合は労働協約としての規範的効力が認められないので、1は正しくありません。  
労働協約は、労働条件の有利不利を問わず、労働契約・就業規則に優先しますので、2は誤りです。  
組合員の既得の権利を放棄させるような条項は、協約自治の限界を超え無効となるため、3は正しくありません。  
労働協約は、一定の要件を満たすと非組合員についても拡張適用がなされますので(労組法17、18条)4は誤りです。



## 東部地協「アイヌ差別」について学ぶ —「労組対象研修会」に子どもを含めて48人参加—

東部地域協議会は、人権啓発活動の一環として、人権に対する意識の高揚と同和問題をはじめとするさまざまな人権課題の解決をはかるため、人権教育・啓発を推進し、人権尊重の社会の実現に向けて「労働組合対象研修会」を開催し、人権擁護の推進に取り組んでいます。

11月3日(火)、さざんか会館において「労働組合対象研修会」を開催しました。今回は、従来の研修内容とは違った視点で開催することとし、鳥取アイヌ文化を学ぶ会副代表であり、元地協議長の河原清夫さんを講師に「アイヌ民族の文化と現状」について学習しました。アイヌの人々の現状や歴史から「アイヌ差別」について、子どもたちと一緒に、紙芝居(アイヌの人たちのたべものやくらし)を観ながらの講演は、大人はもちろん子どもにも大変分かりやすい内容でした。

普段アイヌ民族について考える機会が非常に少ない中、アイヌの人たちに対する差別をなくすために固有の歴史と文化、言語、生活習慣、そして、明治政府の同化政策によって苦難を強いられたことなど新たな学ぶ機会となり大変有意義な研修の場となり、参加者からは、概ね評価を得ることができました。(寄稿 東部地域協議会副議長 勝田智博さん)



会場の様子



講師/河原清夫副代表(右)と山本朝子人権擁護委員(左)

### —参加者からの感想—

- アイヌ民族の文化や生活について学ぶ事ができて良かった。
- アイヌの方が迫害を受けた歴史は、「部落差別」と同様で、考える機会を得ることができた。

## 働くための基礎知識は大切です! —ワークルール検定・初級にチャレンジ—

連合は、ワークルール普及の観点から、「ワークルール検定」の取り組みを進めています。この「ワークルール検定」は職場で働く労働法上のきまり(ワークルール)について、正確な知識を獲得するための検定制度で2013年から実施されており、鳥取県では3回目の開催となりました。

今回、初級検定を初めて全都道府県において一斉に開催するにあたり、「勤労感謝の日」の11月23日(月)、白兔会館(鳥取市)で「ワークルール検定2020・秋(初級)」を開催し、県内外からの一般受験者7人を含む28人が、新型コロナウイルス感染症対策を講じた中で受験しました。

労使双方が「労働法」を知らないことにより、労働問題のトラブルの原因になることが多くあります。実際に参加された方に受験理由を尋ねたところ、「使用者の発言がおかしいと感じたが、その根拠を知識として持っていなかったのでその場で返すことができず悔しい思いをした。そのようなことを繰り返さないために受験を決意した」と教えてくださいました。

この試験は来年以降も毎年行われます。「自らの権利を守る」ために、積極的な受験をお待ちしています。

※合格発表/12月15日  
日本ワークルール検定協会のHP掲載

### 過去問に チャレンジ!

問)労働協約について、正しいものをすべて選びなさい。

- 1.労働協約は、書面化したうえで両当事者が署名または記名押印しなければ、規範的効力は認められない。
- 2.労働協約によって、労働契約で定めた労働条件を不利益に変更することはできない。
- 3.労働協約によって、組合員の既得の権利を放棄させることはできない。
- 4.労働協約は、組合員以外の労働者に適用されることはない。

答えはP2で確認してね

今回の「差別リレー」コーナーはお休みします

## 連合鳥取結成30周年記念の葉作成

連合鳥取は1990年2月9日結成から30年を迎え、2010年度から2019年度の10年間の主な運動を掲載した「記念の葉」を作成しました。

発行にあたり、本川博孝会長は「私たちは過去と未来をつなぐ新たな一歩を力強く踏み出した。『働くことを軸とする安心社会』の実現に向け運動を進めていく」と記しています。あわせて、平井伸治鳥取県知事と(一社)鳥取県経営者協会の宮崎正彦会長よりお祝いの言葉を寄稿いただきました。





# 湯原俊二 — りょくひ 緑肥の想い —

## 地方銀行の再編について

日銀が菅政権にいわれ、地方銀行の再編支援を検討しはじめました。アベノミクスによって所得の格差が拡大し、お金を使いたくてもお金がない世帯が増え、お金の多少余裕があっても生活不安、老後への不安から貯蓄にお金まわり、個人消費が伸びていません。国内の経済の6割は個人消費であり、個人消費が伸びないため経済が上向いていません。

そこで政府や日銀はお金を市中に出すためにマイナス金利という劇薬を打ち出しました。しかし、マイナス金利のため利ざやを稼げない地方銀行は、体力を消耗してきています。そこに菅総理と親しいSBI証券が出てきて、体力の消耗した地方銀行の再編をいいはじめました。菅総理はいわれるがままに地方銀行の再編を日銀に任せています。

アベノミクスの失敗のツケを払わされるのは、地方銀行が再編されて困る地方の住民です。今必要なのは、格差を拡大させる政策ではなく、暮らしを豊かにし、個人消費を伸ばす子育て、教育、雇用、年金、医療、介護など社会保障を充実させる政策です。

[湯原さんのホームページもご覧ください](#)

湯原俊二

検索

QRコードからもつながります▶



### 湯原俊二「総がかり大作戦」スタート

- ※組合行事に湯原さんをお呼びください。
- ※湯原さんの想いを直接聞いてください。
- ※そして、私たちの声も湯原さんに届けましょう。



支援の輪を広げましょう

## “ザ・議員”

### 浜田 妙子 鳥取県議会議員

新型ウィルスとの闘いが続きます。広がる幾重もの課題へ向き合う姿勢が今、問われています。命の危険を顧みず働く人、収入を失くし、人間関係に疲れ自らの命を絶つ人。追い詰められて生きる人への理解と支える力は慈愛と寛容の精神でなければなりません。

「政治はちゃんとあなたを見ている」スタートした新立憲民主党・枝野代表の言葉です。顔の見える地方では一人ひとりがそれを実感できていなければなりません。政治理念は国家より個人を優先、命と暮らしを守る国民の政であり、互いに支え合いながら進みたい。コロナに打ち勝つことこそが政治と人の力をつけることと信じています。



立憲民主党県連結成街頭演説 (2020.10.10)

### 棕田 昇一 鳥取市議会議員

「光がないと真っ暗闇です！」こう言うと、執行部席にクスッと微笑みの表情が見えました。よし、伝わったと手ごたえを感じながら私の役割の「オンライン教育」の質問を始めました。コロナ禍の議会でこの一週間前に、勝田議員が5年間言い続けた光回線の全市域整備方針を引き出しました。6月議会、会派未来ネットでの役割分担が功を奏した瞬間でした。

9月議会では「STOPコロナ差別」を主テーマに質問しました。県議会では、会派民主の代表質問で坂野県議が、「人権尊重の社会づくり条例」に「あらゆる差別禁止」を盛り込む方向の知事答弁を得ました。あらゆるレベルで議員連携をさらに深めたいものです。



6月定例会で質問

11月は、1日に大阪市廃止・特別区設置住民投票と、3日のアメリカ大統領選挙の大きな二つの投票行動が話題となった▼結果、大阪府は存続し、バイデン新大統領の誕生が確実視されている▼二つとも接戦となったため、市民・国民が大きく「分断」された上に、勝敗がつかなくてもスッキリしないことも話題である▼分断は、白黒に分かれ互いを敵視し二極化する「新自由主義」の姿そのものだと思える。白と黒の間には無限の色が広がっている♪は、好きなアーティストの歌詞で、多様性や寛容を大事にしている▼効率を追求し過ぎる新自由主義は、理性・知性のない「原始的な弱肉強食」に例えられる。強者の論理がまかり通り、弱者はさらに弱者を見つけて攻撃し、分断が分断を生んでいる▼(独)経済産業研究所は8月の段階で「新型コロナウイルス危機が日本の労働市場に与える脅威は、全ての労働者たちに平等に襲いかかるわけではなく、彼らのさまざまな属性へ年齢・性別・雇用形態・教育水準・職業・産業によって異なる」と報告した▼弱肉強食の社会が、コロナ禍でより先鋭化した今だからこそ「奪い合いから分かち合いへ」分断から融和へ「協力と寛容な社会」が求められている。

与えるではなく贈る  
気持ちで、付けられた  
曲名は「GIFT(ギフト)」だ。

(西風)

つづいて

